

特別な支援を必要とする子供への就学前から学齢期、社会参加までの切れ目ない支援体制整備

目的

増加傾向にある「幼稚園や学校での生活に適応するために特別な支援が必要な子ども達」に対して、個に応じた教育課程の在り方やその指導法、幼少期からの支援の在り方を明らかにする。

特別な支援が必要な子ども達への切れ目ない支援体制を整備するため、幼・小・中の連携及び家庭との連携を踏まえた教育支援・指導計画の作成に繋げる。



成果

1 『特別支援臨床研究』の実施

学校での子ども達の様子を観てもらったうえで専門的な知識を有したアドバイザーから子どもに即したアドバイスをもらい、幼・小・中の連携を踏まえた教育支援や指導に繋げることができた。

2 『特別支援教育研修会』の開催

特別支援教育に指導実績がある教師の模範授業、研修会を実施し、特別支援教育における個に応じた指導計画の作成、当町が進めるキャリア教育の推進に繋げることができた。

事業内容

1 『特別支援臨床研究』

東日本大震災以降10年間、当町の子ども達を見守ってきた臨床心理士兼公認心理師の資格を持つカウンセラーをアドバイザーとして迎え、学校での子ども達の様子や知能テストの結果、学力テスト（CRT）の結果を踏まえて、支援が必要な個々の子どもに即した教育計画の作成や指導のための助言を受けた。

令和3年度 小学校 4校 中学校 1校 計5日

令和4年度 小学校 4校 幼稚園 1園 計8日

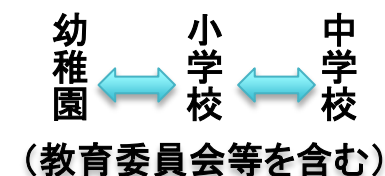
令和5年度 小学校 4校 中学校 1校 計8日

2 『特別支援教育研修会』

特別支援教育に対して顕著な指導実績を持つ教師を招聘し、指導助言、中学校1年生の道徳科で指導法の模範授業、中学校の特別支援学級の授業に関する研修会を実施し、教育課程等についてのアドバイスを受けた。

令和5年度 1回

幼・小・中の連携及び 家庭との連携



子ども

保護者